細胞診を学ぶ人のために　第 5 版

坂本穆彦　編

＜書評者＞　大野英治　（倉敷芸術科学大主任教授・生命医科学/
加計学園細胞病理学研究所所長）

このたび，坂本穆彦教授の編集による『細胞診を学ぶ人のために第 5 版』が出版された。

本書は総論 127 ページ（1〜8 章），各論 219 ページ（9〜15 章）から成り，総論を細胞診専門医でもある 6 人の認定病理医が担当し，各論を癌研究会有明病院の 3 人のベテラン細胞検査士が分担執筆している。また今回から新たに，別表として「組織細胞診断に有用な抗体」が巻末に掲載されている。

総論には「はじめに」「細胞の形態と機能」「組織」「細胞像と組織像の対比」「病理組織学」「標本作製の実際とその理論的背景」「顕微鏡の基礎知識と操作法」「スクリーニングと細胞の見方」といった，これから細胞診を学ぶ人にとっては好都合の基本的内容が網羅されており，特に細胞検査士認定試験の受験予定者は必読であろう。

各論には，「婦人科領域の細胞診」「呼吸器領域の細胞診」「消化器領域の細胞診」「泌尿・生殖器の細胞診」「乳腺・甲状腺の細胞診」「体腔液・脳脊髄液の細胞診」「非上皮性組織の細胞診」など，領域ごとにシェーマを多用しながら細胞像が説明されている。熟練の細胞診専門家にとっても座右の書として大いに役立つと期待される。

前版と第 5 版の大きな違いは，ベセスダシステム 2001 の導入に伴う「子宮頸部細胞診」の項の大幅な改訂である。子宮頸癌についての異形成や上皮内癌などの従来分類と CIN 分類，さらにはベセスダ分類との関係性が解説されていて，HPV との関連性にも言及されている。細胞診関連の教科書としてはタイムリーである。また 192〜193 ページの喀痰細胞診における「異型扁平上皮細胞の細胞診」の項では，扁平上皮化生細胞，軽度異型扁平上皮細胞，中等度異型扁平上皮細胞，高度異型扁平上皮細胞のそれぞれの鑑別のポイントが平易に説明されていて，実にわかりやすい。

私事ではあるが，われわれの大学での細胞検査士養成コースでも本書を活用し検査士教育を推進している。本書は細胞診を学ぶ人にとって必携の書である。

●B5　頁 392　2011 年
定価 10,290 円
（本体 9,800 円＋税 5%）
［ISBN978-4-260-01185-3］
医学書院 刊

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2011

2026/11/11 09:28:09